

NPO 免疫療法懇談会理事長

1956年、福井県生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業後、80年に松下政経塾第1期生として入塾。その後、近親者の急逝に無常を知り、龍谷大学大学院に転じ、比較宗教学・仏教学を学ぶ。大学で教鞭を執りつつ、89年より厳正寺副住職。平和・人権運動に情熱を燃やす。02年、NPO免疫療法懇談会理事長代行、本年2月より同理事長。

カミさま、ホトケさま

人工物に「魂」を感じる日本人

文明には何らかの宗教的ベースがあります。多くの先進国がキリスト教（新教）ベースの「近代」を謳歌する中、日本だけが異なる宗教原理で「近代」を成功させてきました。

カミさまは「上」からきていて、高いところであって人間には手の届かない（手を出すべきでない）宇宙・大自然のさまざまな力やはたらきを崇め感謝するのが原義です。私たちの先祖は、太陽（アマテラスオオミカミ）を始め、海・山・川・森・動植物などに宿る宇宙・大自然の息吹を「八百万の神」として敬ってきました。かつて松下政経塾の生産実習で、工場の人々が産業用ロボットに愛称をつけて可愛がっているのに感動しましたが、欧米人は「モノ」としか見ない人工物にさえ「魂」を感じる日本人です。自然のモノも人工のモノもケ高い精気を宿す「モノケ」として尊ぶのです。

一神教では神 VS 悪魔に発する二元論が徹底していて、そこからすべてを二元対立で考える「近代」という両刃の剣が生まれ、科学技術・合理主義・契約社会を発展させた反面、はてしないエゴイズムや「聖戦」の論理ともなり、疎外・対立・紛争・戦争を助長してきました。神道もかつて政治に利用されましたが、本来のカミガミは『もののけ姫』や『千と千尋の神隠し』に描かれるような、いさかいを鎮め共生を守ってくれる「鎮守の森」の精霊たちで、共存・共栄の多元原理なのです。自然の中に出かけると、潮騒・せせらぎ・森のざわめき・鳥や虫の声などが饒舌に語りかけ、私たちも本来、自然の一部であることを示してくれます。カミにあって、自然のありようをさまざまに示し申してくれるものが、日本の「神」さまなのです。

「縁」を生かすも殺すも自分次第

ホトケさまの方は、漢字に人偏がついている通り、私たち人間のことです。「沸く」は水が目に見えなくなっても、高い次元のものに向上するという意味ですが、人が死を越えて向上しながら生きぬく姿を「佛」と表現します。

カミガミのはたらきをひっくりめた大宇宙の法則をインドではダルマ（法）といい、「無常（すべては生成発展）」と「縁起（すべては因果でつながっている）」を要とする法に目覚め、法を踏まえて自利・利他円満に生きぬく人をブツダというのです。

日本に伝わった当初、ブツダは「浮図（ふと）」と音写されていたため、人間もカミさま同様、ケ高い存在になれるんだと感動して、語尾にケをつけ、ホトケとなりました。モノケとホトケ、つまり「カミさま、ホトケさま」が並び立つようになったのです。縁起観は科学とまったく矛盾せず、日本人はすぐに近代科学・合理主義を自家薬籠中のものにできました。念仏・題目・禅・真言、どの道を行こうと来世は必ず成仏が約束されており、死をおそれず生に感謝・報恩して職業に邁進するようになりました。すべては神の定めとする一神教と違い、「縁」は運命でもそれを生かすも殺すも自分の「業」次第で、自由で積極的な人間観・世界観も切り開かれました。

自然と人間をともに尊ぶ神仏の伝統は、エコロジーと人権擁護という人類社会の大きな要請に応えうるものです。国際社会の共存・共栄は文化多元主義の普及と相互依存の自覚にかかっていますが、これこそまさに多神教と縁起観から導かれる近代原理なのです。

病は気から——免疫と心

「生が熟する前の死」を防ぐ医学

私が副住職を務めるお寺では年に八十件あまり葬儀があり、うち二十件強はがんによる往生で、悲しみの深い天逝も珍しくありません。仏教の本務は死者儀礼でなく生者救済ですから、何とかしたいと思っていたところ、がん免疫療法の世界的権威、医療法人社団・珠光会理事長・蓮見賢一郎医師と邂逅し、がんワクチンががんの予防と再発防止に極めて有効であることを確信しました。以来、有縁の人々にお勧めし、父を含む多くの人々の「中天（天寿を全うしない死）」を防ぐことができました。生にとって死は必然ですが、「pre-mature death（生が熟する前の死）」を防ぐ医学は、「死を踏まえた生の充足」を説く仏教にも叶う最善の科学です。

「疫」病を「免」がれるよう生体に具わる自然治癒力が「免疫」ですが、その精緻な命のメカニズムは神秘そのものです。私たちの体内に無数の細胞将兵からなる勇猛果敢な自衛隊がいて、常に外敵から命を防衛してくれているという事実は感動的でさえあります。

免疫療法には二種類あります。ひとつは免疫を「強く」するもの、もうひとつは免疫を「鋭く」するものです。前者は、自衛隊の武装を強化する方法で、キノコ類（多糖類）・海藻類などの食べ物、丸山・ワクチン・サプリメント類などの医薬品、その他多くの方法が知られてきています。後者は、自衛隊の友敵識別機能を鋭敏化し正確なピンポイント攻撃を可能にする方法で、がんワクチンと呼ばれる療法です。

いくら強い常備軍を保持していても、敵が発見できなければ攻撃のしようがありません。敵（がん抗原）を自衛隊（免疫系）に「認知」させ、「排除」に向かわせる仕組みががんワクチンで、現在、内外で盛んに研究・開発されつつありますが、臨床的に使用され実績を挙げてきているがんワクチンは、現在のところ昭和二十三年に故・蓮見喜一郎博士が開発したハスミワクチンしかありません。

いただいた天寿をどう生きぬくか

自然治癒力で天寿を全うできる時代がくる

私は昨秋から予防ワクチンを自己注射していますが、あれほど春風が恨めしかった年来のひどい花粉症が、今春びたりと治りました。がんワクチンの本質はどうやら免疫の照準の修正にあるようで、アレルギー疾患・自己免疫疾患（膠原病など）を治す効能もあるようです。

究極的には、アメリカを中心に開発中の遺伝子療法がDNAレベルでの「宿業転換」を可能にし、万病が根治するようになるのかもしれませんが、遺伝子操作は倫理的問題を孕み、未知の激しい副作用も懸念されています。

これに対して、日本発の免疫療法は自然治癒力を賦活するだけで、副作用のない、より身近な福音です。近未来、これらの療法が十分に開発されれば、物理的手段や化学物質だけに依存する弊害の多い既成医療は一変し、万人が快適に天寿を全うできる時代がくるはずです。少なくともがんはもう治る時代なのです。

「質」の高い命を生きぬきたい

NPOのお仕事でがんから生還されたたくさんの方々のご縁をいただいておりますが、その多くが「菩薩道」とも呼ぶべき大変利他的な人生を歩まれていることに深く感服しています。

死線を彷徨う体験を乗り越えられた方は、皆一様に「生かされてある命」の有難さを本当に実感されるようで、世のため人のために献身されている方が大勢いらっしゃいます。私の善悪の定義は、自他の命を生み・育て・癒し・和ませることが善で、命をくもらせ・傷つけ・殺めることが悪である、というものです。

「ただ元気」な利己的な人生は、無自覚なままに他の命を傷つけ、自らも体を「煩」い、心を「悩」ます結果に終止しがちですが、大病を克服し、「生かされてある命」に目覚めた人生は、他者の命をも深く慈しめるようです。

今後も医学の進歩はますます命の「量」を確保してくれましょうが、本当の意味でのQOL（quality of life）、「質」の高い命を生きぬけるかどうかは、一人ひとりの心がけ次第です。わが国だけで年間五十万人が発病するといわれる先進国の国民病・がん。患者様のすべてが最適な治療法に出合わせ、死の淵から生還され、ご家族ともども本当の生に目覚めていかれることを心から念じています。命のかけがえのなさを痛感する人々が増えることで、社会や国家、そして世界の病理も少しずつ治療され、癒されていく可能性にも期待しています。

WIS・Jは、2000年にアメリカで「がんワクチン療法」が世界で初めて証明されたことを受けて、2001年にNPOとして発足した国際組織です。

WIS・Jロゴ:「虹」は免疫療法など近未来医療でガンなど難病が克服される「希望」を、「白鳩」は世界・家庭の「平和」を、「実のなる樹」は、一人ひとりのかけがえのない命に、「実りある天寿」を全うしていただくこと、を表わします。

* 詳しい資料は下記へお問い合わせ下さい *

NPO免疫療法懇談会

WIS-J (World Immuno Society Japan)

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-15-11 虎ノ門林ビル 5階

Tel: 03-3591-2727 Fax : 03-3500-1441

www.wis-j.org

Email: menkon@wis-j.org